

地の塩、世の光 マタイによる福音書 5:13-16

1. あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。(5:13)
 - a. 先週はイエスの有名な山上の垂訓の初めの部分、八福の教えを見ました。その中で繰り返し「幸い」という言葉が使われていましたが、それはイエスの弟子一人一人に対する神のみこころであることを学びました。そしてそれは祝福で満たされた場所、天の御国の雰囲気そのものなのです。
 - b. さて今度はイエスは弟子たちのアイデンティティについて語られます。イエスに従う者たちは塩であり光です。ここで注目すべきは、イエスは「あなたがたを地の塩、世の光にしてあげよう。」とされているということです（以前は「あなたがたを人間をとる漁師にしてあげよう。」とおっしゃった）。むしろ、弟子たちがもともとそうであったかのように指摘されています。
 - c. ただし、イエスは私たちがアイデンティティを失わないよう注意を促しています。あなたがたは塩だけれども塩けを失わないようにしなさい。あなたがたは光だけれども柵の下に隠れないようにしなさい。
 - d. イエスが弟子たちのことを塩だと呼ばれる時、それはどういう意味なのでしょう？聖霊がより深い啓示を与え完全な解き明かしをしてくださるでしょうが、私たちすべてに当てはめて言えることの一つは、私たちは特別に聖別されており、外に捨てられて踏みつけられるのではなく、いろいろなことに役に立つ存在だということです。
 - e. これは神がアダムとイブを園に置いた時と同じコーリングでありアイデンティティです。もしかしたらイエスは人間の本来のアイデンティティを取り戻して下さっているのか、あるいは思い出させようとしているのかもしれませんが、いずれにしても私たちがイエスに従う時、神は私たちを御国建設の多くの良い業のためにお用いになり、イエスの栄光へと導かれるのです。
2. あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。(5:14-15)
 - a. そしてイエスは私たちのアイデンティティについてさらに大きな啓示を与られます。私たちは単に地上の管理人、地の塩ではなく、世界の光でもあると言われるのです。範囲は地から世界へと広がっています。
 - b. ヨハネの福音書の中ではイエスは世の光だとの記述がありましたが、ここではイエスに従う者もまた世の光だと呼ばれるという啓示が与えられています。
 - c. イエスの時代、聴衆になじみのあるいくつかの「山の上にある町」がありました。セフォリス…ナザレの北4マイル、洗練された、ローマ様式の建物がある大きな町。それはイエスが育ったナザレからも見る事ができたでしょう。もう一つはガムラ…ゴラン高原にあり、ガリラヤ湖からは誰でも見る事ができた町。そしてもちろんイエスにとってはこの町がつねに頭にあったことでしょう…最も聖なる都、エルサレム。
 - d. 群衆がどの町を想像していたにしても、イエスのポイントは、イエスに従うあなたがたは世の光である、ということでした。
3. このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。(5:16)
 - a. 神は私たちを地の塩、世の光として創造されました。それは八福の教えで見たように私たちが祝福されるため、周りの人々への祝福となるため、そしてすべては天の御父の栄光のためなのです。